



【写真上】風車ブレードに向かって上昇するメンテナンスロボット  
【同左】ブレードを点検するロボット

## 風力発電点検 ロボに任せて

強風下でも作業可能  
実用化向け現地試験  
弘大など、鯉ヶ沢で  
風力発電施設の風車ブレードをメンテナンスするロボットの現地試験が24日、

鯉ヶ沢町赤石町にある市民風車「わんず」で行われた。ロボットは弘前大学と豊田通商(本社・名古屋市、東京)などが開発中で、年度内の実用化を目指している。

風車ブレードは定期的な点検が必要で、通常は作業員が施設上部からロープでぶら下がり行う。2016年度末現在、本県の風力発電は設備容量で全国一、設置基数で北海道に次いで2

位。今後も多くの建設計画があり、安全で効率のよい点検が課題となっている。

ロボットは縦横約1・2メートル、重さ約40キロ。上部のカメラでブレード表面の状態を確認し、異常がある場合は遠隔操作で修復できるほか、落雷時のアースがつながっているか確認する導通試験を行える。通常は作業できない風速10メートル程度でも点検できるという。

試験は弘大北日本新エネルギー研究所が主催し、県内外の風力発電事業者ら約60人が参加した。関係者の操作でロボットがロープをつたい上昇。参加者らはブレードに取りついたロボットから送られた映像を地上のパソコンで確認した。

「わんず」の点検を行っている森山ディゼル(青森市)の関係者は「一人に危険な作業をさせないことが一番重要。安全な場所で作業できる」と実用化に期待を寄せた。

(竹内健一)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r\_koho@hirosaki-u.ac.jp